高等学校における科目保健授業の実態に関する調査報告：女子体育大学生と一般大学女子学生との比較

A Survey Report on the Actual Condition of Subjects in Health Education in high school: Comparison between Women's Sports Physical Education College Students and General University Students

キーワード：保健学習への感情・価値・期待、保健の学習状況
Keywords: Feelings and values and expectations to health learning, Learning situation of health

戸田　芳雄　　笹生　心太
TODA Yoshio　　SASAO Shinta

はじめに

東京女子体育大学女子体育研究所では、2015（平成27）年度に共同研究として「高校時代の保健体育授業や課外活動の実態調査」2）を実施し、その一部内容とされていた科目保健（以下「保健」という）の授業については、「本学新入生の高校時代に関する調査研究」1）として東京女子体育大学女子体育研究所所報第10号で報告した。

その際に調査対象としたのは女子体育大学の新入生であったことから、翌年2016（平成28）年度に、平成27年度の調査票から学力に関する調査項目（別紙の高等学校保健学習の内容に関するそれぞれの問題Q33（1）～（18））を除いて同様の調査票を用いて一般大学の女子大学生を対象に調査を実施した。比較の視点は、「保健学習への感情・価値・期待」、「日常生活における健康生活の実践状況」、「高等学校時代の保健学習への取組」及び「高等学校における保健の授業の学習状況」の4点であった。

なお、調査項目は、財団法人日本学校保健会の承認を得て、「保健学習推進委員会報告書」6）（平成22年11月～12月に実施した全国調査「保健学習の推進状況の課題を明らかにするための実態調査」結果を取りまとめた報告書）の項目の一部を使用し、前記所報第10号1）において高等学校3年女子の結果との比較考察を行っている。

1．目的

本研究は、平成27年度の女子体育大学生（本学学生。（図表内では、「本学」と表示）と平成28年度の一般大学女子学生の調査結果を比較し、「保健」への感情などや健康生活の実践状況及び高等学校時代に受けた「保健」の授業にどのような違いがあるかなどについて明らかにすることを目的としている。

2．方法

(1) 調査方法

女子体育大学生については、本学学生に対して2015（平成27）年7月に、大学1年生必修科目「スポーツ史」（掛水担当）の授業で質問紙法による集合調査を実施した。高校時代に高大連携で履修済のため必修科目「スポーツ史」を履修していない学生は、所属クラスの授業あるいは女子体育研究所で別途実施した。調査人数は374人（1年生在籍数386人

の96.9％）、回収率は100％であった。

一般大学女子学生については、本学研究倫理規程に則り本学研究倫理委員会に承認された後に、A女子大学の承認を得て、2016（平成28）年6月から7月にかけて一年生を対象に、A女子大学において質問紙法による集合調査を実施した。調査人数は、A女子大学生420人（一年生426人中、回収率98.6％）であった。

(2) 調査分担

本調査は女子体育研究所共同研究の一環として実施し、保健部分の調査項目について、統計処理と図表作成は笹生心太氏、分析・考察及び報告書の作成は、戸田芳雄が行った。

(3) 調査項目及び用紙の作成

調査用紙はA4裏表4ページ、全体134問のうち保健は23問を占める。2016（平成28）年4月20日に女子体育大学研究倫理委員会に承認された。

3. 結果と考察

(1) 保健学習への感情・価値・期待

保健学習への感情に関する調査項目は、「保健の学習が好きだ。」及び「保健の学習は楽しい。」の2項目である。結果は、2項目とも女子体育大学生、一般大学女子学生のいずれも、「そう思う」及び「ややそう思う」の肯定的な回答が約5割、「どちらかと言えばそうは思わない」及び「そう思わない」の否定的な解答が4割強で双方ほぼ類似の傾向が見られる。

価値に関しては1項目、期待に関しては4項目であり、いずれの項目も肯定的な回答及び否定的な回答いずれも女子体育大学生及び一般大学女子学生がほぼ同率である。

詳しく見ると、価値については、女子体育大学生及び一般大学女子学生ともに肯定的な回答が9割強と高率になっている。

感情については、「保健の学習は好きだ」、「保健の学習は楽しい。」は、肯定的な回答が、女子体育大学生、一般女子大学生ともに約5割、否定的な回答が約45％程度とほぼ同率となっている。

期待については、項目によって回答率がややばらつきがあるが、女子体育大学生、一般大学女子学生にほぼ類似の傾向が見られる。

詳しく見ると、「保健の学習をすれば、私の今の生活に役立つ」が女子体育大学生及び一般大学女子ともに9割弱と高く、「保健の学習をすれば、心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ」がともに約7割、「保健の学習をすれば、社会に出てからの生活に役立つ」が約8割5分、「保健の学習をすれば、国民全体の健康づくりにつながる」が約7割6分が肯定的な回答をしている。

この結果から、調査対象の両群の学生ともに、約半数が保健学習に肯定的な感情を有し、かなり高い割合で、価値・期待を有していることが分かった。

また、いずれの項目も女子体育大学生と一般大学女子学生の結果に大きな差異は見られなかった。

①保健の学習が好きだ。

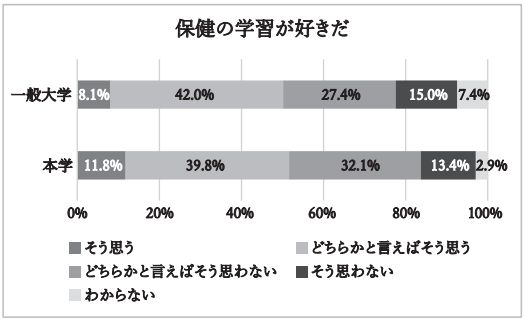

図1　保健学習への感情①

②保健の学習は楽しい。

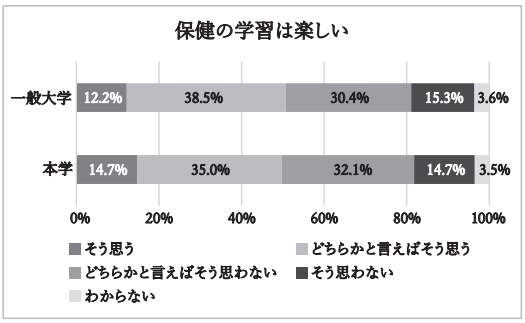

図2　保健学習への感情②

③保健の学習は大切だ。

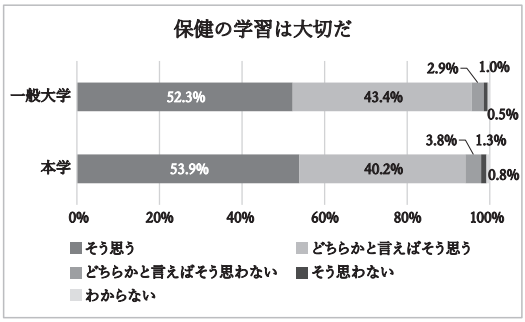

図3　保健学習の価値

④保健の学習をすれば、私の今の生活に役立つ。

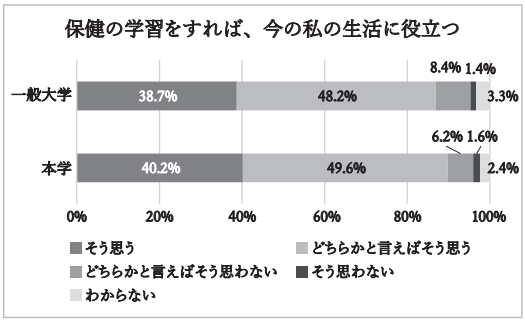

図4　保健学習への期待①

⑤保健の学習をすれば、心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ。

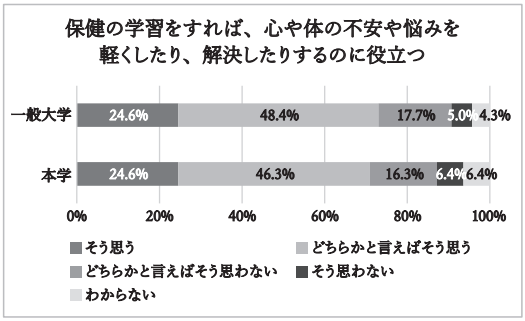

図5　保健学習への期待②

⑥保健の学習をすれば、社会に出てからの生活に役立つ。

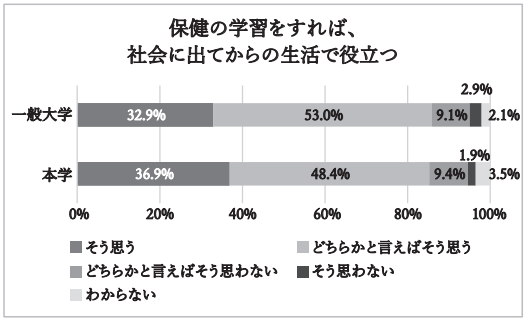

図6　保健学習への期待③

⑦保健の学習をすれば、国民全体の健康づくりにつながる。

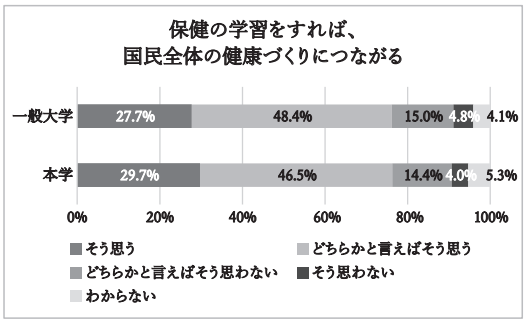

図7　保健学習への期待④

(2) 日常生活における健康生活の実践状況

日常生活における健康生活の実践状況を答項目は、3項目である。この3項目の結果には、女子体育大学生と一般大学女子学生の結果にそれぞれ差異が見られる。

詳しく見ると、「自分の生活や身の回りの環境について、ふりかえったり考えたりしているか」で肯定的な回答をした者は、女子体育大学生が6割弱、一般大学女子学生5割強、「自分の生活に生かしていますか」で肯定的な回答をした者は、女子体育大学6割強、一般大学女子学生5割強で、両項目とも女子体育大学生が高くなっている。逆に、「テレビなどで、健康に関する情報を見たり調べたりしているか」は、女子体育大学生が4割強、一般大学女子学生5割

弱と一般大学女子学生の回答割合が上回っている。

このことから、女子体育大学生は、自分の生活や身の回りの環境を振り返ったり、考えたり、自分の生活に生かしているという回答が一般大学女子学生に比較してやや高い傾向にあり、女子体育大学生は日常生活において保健の学習内容を意識して健康な生活を実践しようとしているが、テレビなどで健康に関する情報を見たり聞いたりすることがやや少ない傾向がみられる。

①自分の生活や身の回りの環境について、ふりかえったり考えたりしているか

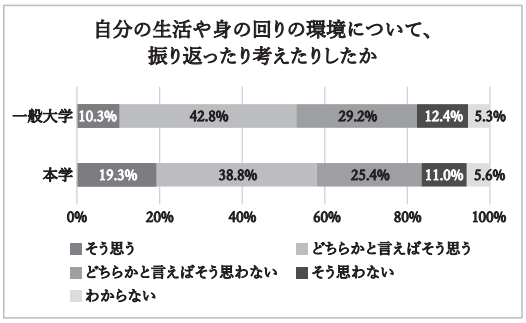

図8　日常生活における健康生活の実践状況①

②自分の生活に生かしていますか

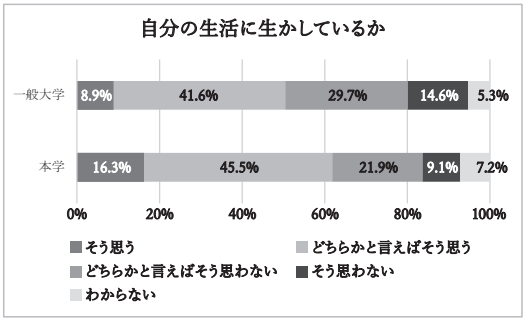

図9　日常生活における健康生活の実践状況②

③ テレビなどで、健康に関する情報を見たりしているか

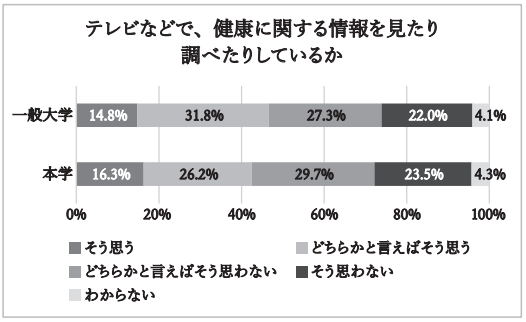

図10　日常生活における健康生活の実践状況③

(3) 高等学校時の保健学習への取組等の状況

高等学校時の保健学習への取組等の状況については、「好きだったか」、「考えたり工夫できたか」及び「分かったか」の3項目である。

詳しくみると、「保健学習は好きでしたか」に肯定的な回答をした者は、女子体育大学5割強、一般大学女子学生5割弱、「考えたり工夫できたか」に肯定的な回答をした者は女子体育大学約5割、一般大学女子学生約4割、「保健で学習したことは分かりましたか」に肯定的な回答をした者は、女子体育大学、一般大学女子学生ともに9割弱の回答率となっている。

このことから、高等学校での保健で学習した内容は、分かったとする者が多かったが、保健学習が好きだった、考えたり工夫したりできた者は半数程度であったと言うことが分かった。

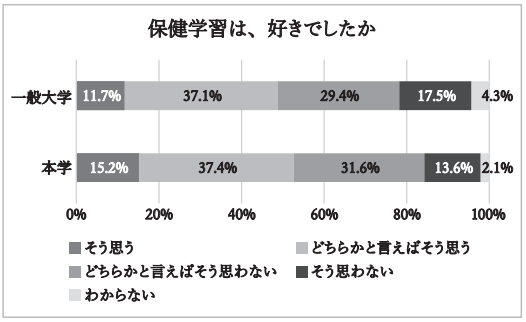

図11　高等学校時の保健学習への取組等の状況①

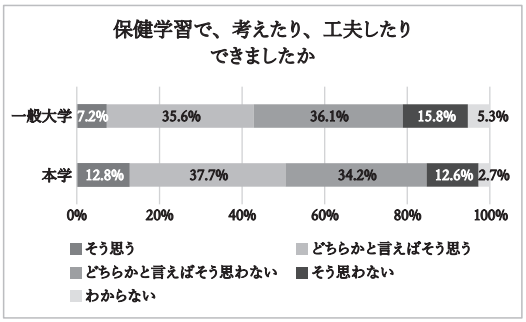

図12　高等学校時の保健学習への取組等の状況②

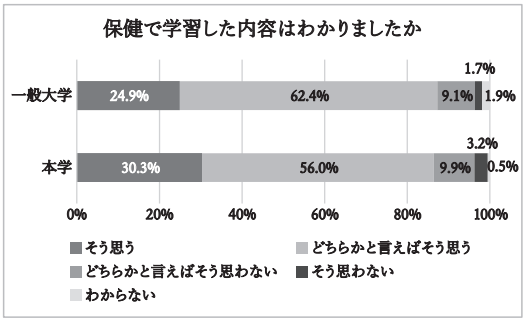

図13　高等学校時の保健学習への取組等の状況③

(4) 高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況

高等学校学習指導要領では、「保健」の内容を大きく3項目に分け、それらをいくつかの項目（単元）に分けている。それぞれの内容の学習状況についての調査結果は、表1のとおりである。

「受けた」及び「はっきりしないが受けたと思う」と回答した者は、項目によって大きな差異があり、両群ともに併せて約6割から9割であるが、平均値の平均を見ると、女子体育大学生では74.8％、一般大学女子学生では72.7％であり、**全体では、7割強の者が**「受けた」及び「はっきりしないが受けたと思う」と回答している。

また、「受けていない」及び「分からない」と回答した者の割合は、女子体育大学生では「健康の考え方」が約4割「交通安全」が約3割、「応急手当」及び「生涯の各段階における健康」で一割強、その他の項目は2割代であった。一方、一般大学女子学生では、「環境と食品の保健」及び「労働と健康」が4割を超え、「健康の考え方」が3割強、「応急手当」が1割弱と最も少なく、他の項目は一割強から2割代であった。

詳しく見ると、「受けた」又は「はっきりしないが受けたと思う」と回答した者の割合で、一般大学女子学生の回答より女子体育大学生が10％以上高かった項目は、「環境と食品の保健」及び「労働と健康」の2項目で、他の項目は5％未満の範囲内でほとんど差がなかったと言える。**逆に、**一般大学女子学生の回答が女子体育大学生より5％以上高かった項目は、なかった。

また、「受けていない」及び「分からない」と回答した者の割合で、一般大学女子学生の回答より女子体育大学生が10％以上低い項目は、「環境と食品の保健」及び「労働と健康」で、**逆に、**一般大学女子学生の回答が女子体育大学生より5％以上低い項目は、「交通安全」のみで、他の項目は5％未満の範囲内でほとんど差がなかったと言える。

このこと及び以下の図表等から、高等学校での保健学習は、約7割以上の内容を実施していることが推測されるが、「受けていない」、「分からない」という回答が、両群ともに多くの項目で2割～3割以上あり、4割を超える項目もあった。特に、女子体育大学生では、**「(1) 健康の考え方」が約4割、「(4) 交通安全」、「(9) 環境と食品の保健」、「(10) 労働と健康」が約3割と高く、「(5) 応急手当」及び「(6) 生涯の各段階における健康」が1割強で低かった。**

一般大学女子学生では、「(9) 環境と食品の保健」、「(10) 労働と健康」が約4割、「(1) 健康の考え方」が3割強と高く、「(5) 応急手当」1割弱、**「(6) 生涯の各段階における健康」1割強と低い結果となった。**「受けていない」、「分からない」という回答が**高い割合の項目は、それらの授業の実施状況に懸念が残る結果と言える。**

表１　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況　（平均　%）

大項目	項目（単元）	対象	受けた	はっきりしないが受けたと思う	受けていない	わからない
現代社会と健康	(1) 健康の考え方	**体**	**28.3**	**32.1**	**7.3**	**32.3**
		—	25.4	39.0	5.3	30.4
	(2) 健康の保持増進と疾病の予防	**体**	**48.9**	**28.5**	**4.3**	**18.3**
		—	46.2	35.6	3.3	14.8
	(3) 精神の健康	**体**	**44.9**	**29.6**	**5.6**	**19.9**
		—	39.8	34.8	6.0	19.4
	(4) 交通安全	**体**	**46.1**	**22.9**	**10.2**	**20.8**
		—	35.5	33.1	12.0	19.4
	(5) 応急手当	**体**	**68.0**	**18.3**	**4.6**	**9.1**
		—	66.0	24.2	2.6	7.2
生涯を通じる健康	(6) 生涯の各段階における健康	**体**	**59.4**	**24.5**	**3.5**	**12.6**
		—	56.7	28.2	2.6	12.4
	(7) 保健・医療制度及び地域の保健・医療制度	**体**	**50.4**	**26.7**	**5.7**	**17.3**
		—	45.9	28.5	6.5	19.1
社会生活と健康	(8) 環境と健康	**体**	**52.4**	**25.3**	**3.2**	**19.1**
		—	45.8	30.0	4.1	20.1
	(9) 環境と食品の保健	**体**	**42.9**	**27.5**	**8.6**	**21.0**
		—	29.9	29.9	10.8	29.4
	(10) 労働と健康	**体**	**40.4**	**30.7**	**7.0**	**21.8**
		—	26.1	31.5	11.5	31.0
平均値の平均（各項目の平均値の合計÷10）		**体**	**48.2**	**26.6**	**6.0**	**19.2**
		—	41.2	31.5	6.5	20.3

注）「体」…女子体育大学生　「—」…一般大学女子学生　母数には、無回答を含まない

以下、各項目（単元）の回答率の詳細を示す。

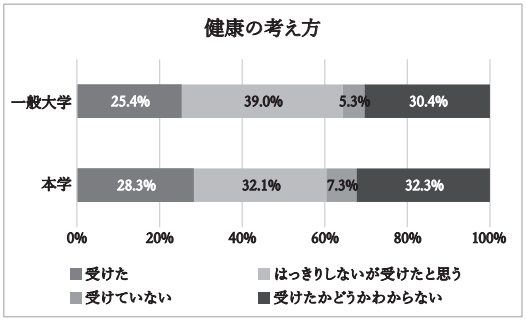

図14　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況①

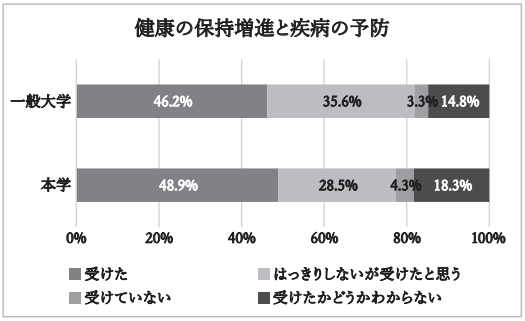

図15　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況②

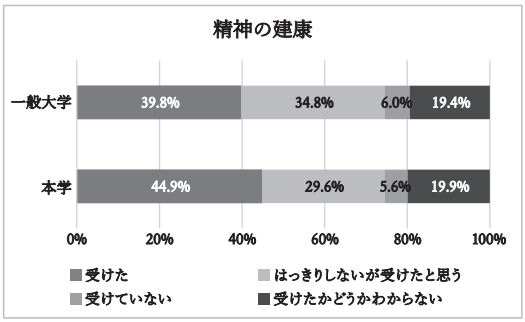

図16　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況③

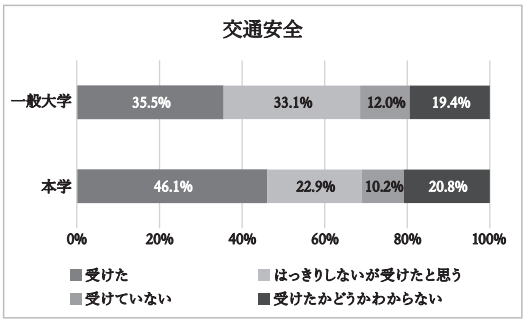

図17　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況④

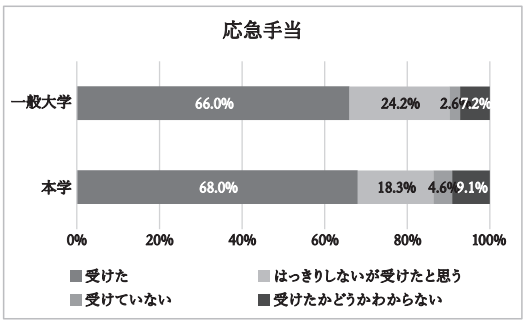

図18　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況⑤

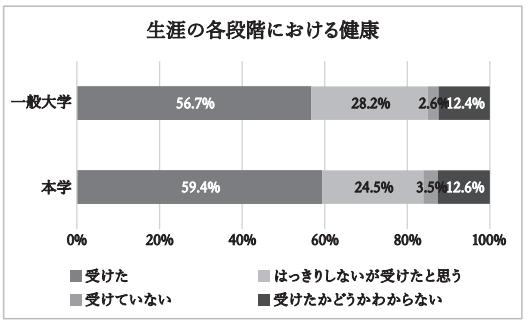

図19　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況⑥

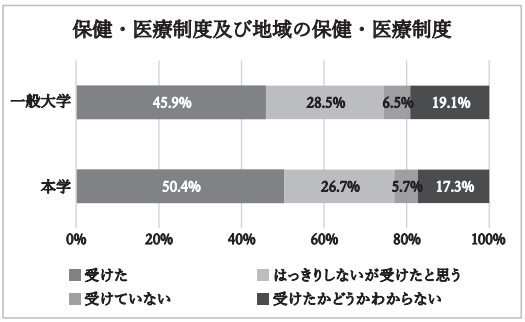

図20　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況⑦

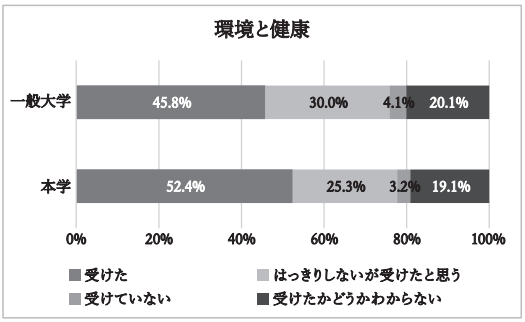

図21　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況⑧

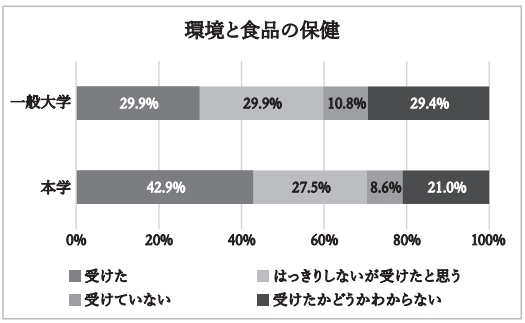

図22　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況⑨

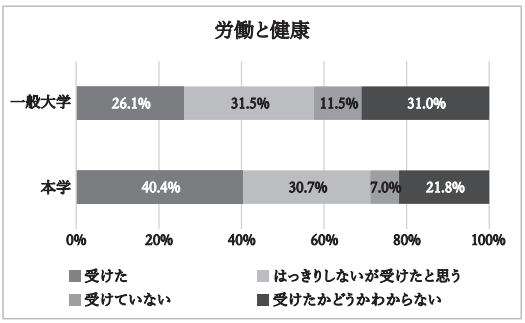

図23　高校での保健体育科「保健」の授業の学習状況⑩

4. まとめ

2015（平成27）年度東京女子体育大学体育学部新入生に対して、高校時代の保健体育科「保健」の授業に対す調査の結果を2016（平成28）年6～7月に一般大学女子学生を対象とした調査結果と比較し、次のことが明らかになった。

多くの項目で、両群の調査結果に類似の傾向が見られ、女子体育学生と一般大学女子学生との大きな差異はなく、調査対象の両群の学生ともに、約半数が保健学習に肯定的な感情を有し、かなり高い割合で、保健学習に対して価値・期待を有していることが分かった。

詳しく見ると、女子体育大学生は、一般大学女子学生に比較して日常生活において保健の学習内容を意識して健康な生活を実践しようとする意識がやや高いが、テレビなどで健康に関する情報を見たり聞いたりすることなど情報に接する機会や情報収集に関する意欲がやや低いと言える。これは、推測になるが、女子体育大学生は一般大学女子学生に比べて部活動などに追われ時間のゆとりがないことが理由の一つに挙げられるのではないかと思われる。

高等学校での保健で学習した内容は、両群ともに分かったとする者の割合が高かったが、保健学習が好きだった、考えたり工夫したりできた者は半数程度であり、思考・判断・表現力の育成に通じる授業の展開に課題があることを示唆している。このことは、2015（平成27）年度の調査結果で、女子体育大学生（本学学生）の内容の理解度が低かったことなどからも推察できる。

また、保健学習の実施状況について、女子体育学生と一般大学の女子学生の両群ともほぼ同様の調査結果を得たことから、高等学校での保健学習は、約7割以上の内容を実施していることが分かるが、両群ともに「（1）健康の考え方」に加え、一般に各高等学校の教育課程編成で学年の後半に位置づけられることが多い項目（**「（9）環境と食品の保健」、「（10）労働と健康」**）の授業が実施されていない可能性があるのではないかと言うことが推察される。

保健学習は、国民全体の生涯にわたる健康で活力のある生活を送るための基礎づくりとして、心身の機能の発達や生活習慣病や感染症の予防、傷害の防止、環境と健康などに関する知識の習得や健康・安全に関する実践力育成の基盤となる重要なものである。とりわけ、約8～9割が中学校及び高等学校の保健体育科の教員免許状を取得する本学の学生や多くの女子体育大学生にとって、体育実技に加えて体育理論や保健の基礎的な知識理解や思考・判断・表現する能力が求められ、高等学校での保健の履修状況や入学時の学力の担保が重要な課題となる。

その課題を解決するためには、各高等学校における保健学習の全項目に渡る丁寧な実施と思考・判断・表現力の育成に通じる授業の展開の一層の工夫が必要であると言える。

参考及び引用文献

1）戸田芳雄・鵜澤文子（2016）「女子体育大学新入生の高校時代に関する調査研究」東京女子体育大学女子体育研究所所報　第10号 pp. 37-43

2）東京女子体育研究所（2016）「高校時代の保健体育授業や課外活動等の実態調査」東京女子体育研究所所報　第10号　pp. 8-12

3）野津有司他（2007）［一般大学女子学生調査による保健学習の実態と課題］学校保健研究　第49巻　第4号　pp. 280-295

4）文部科学省（2009）高等学校・特別支援学校学習指導要領実施スケジュールの概要. 文部科学省ホームページ. http://www.mext.go.jp 2015年11月10日閲覧

5）文部科学省（2006）［高等学校における必履修科目の未履修について］. 文部科学省ホームページ. http://www.mext.go.jp　2015年11月10日閲覧

6）財団法人日女子体育大学校保健会保健学習推進委員会（2012）「保健学習推進委員会報告書」財団法人日本学校保健会